

# H24 年度 学校評価結果公表シート

学校法人廣瀬学園  
よさみ幼稚園

平成 24 年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価を実施致しました。  
教職員自己評価においては、教職員一同、園全体、学年、クラス、自己自身を改めて客観的に見つめ直すことにより、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。  
今年度の学校評価結果を活かし、今後の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努め、子ども達の豊かな心を育てていきたいと考えております。

## I. 教育目標

### 教育目標

清く ■かがやく瞳  
正しく ■ゆたかな心                      かがやく瞳にであいたい。ゆたかなところを、そだてたい。  
たくましく ■のびゆく身体

### 教育方針

「自立心・自主性の育成」

- ・ 考える子
- ・ あそびの中でたのしく最後までやりぬく子

### 教育の特徴

1. のびゆく身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. ゆたかな心を育てる。(音楽リズム、造形活動を通して)
3. 輝く瞳・あらかず喜びを共感する。(自ら創意工夫する活動を通して)
4. 「6つの心」が自然と身につくように育てる。(社会・言葉を通して)
  - ・「おはようございます」という                      明るい心
  - ・「はい」という    素直な心
  - ・「すみません」という                                      反省の心
  - ・「わたしがします」という                                  積極的な心
  - ・「ありがとうございます」という                        感謝の心
  - ・「おかげさまで」という                                      謙虚な心

## II. 今年度の重点目標

本園がめざす教育目標に沿い、教職員の自己研鑽・研修に励み、主体的に教育内容の理解を深める姿勢を身につける。  
また、指導計画を振り返ることにより、日々の実践に挑むことを重点目標とする。

### Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取組状況
1	教育方針・目標	園の教育目標や方針を共有することができるか。また、そのためにどのような取組がなされているか。	A	園の教育目標や方針に基づき、教育要領の理解を深め、伸びやかに幼稚園教育の実践ができるように、日々話し合っている。 また、行事ごとの会議の際も、ぶれない目標・方針のもと、変化する社会に適応し実践するよう取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、日々の実践に活かし取り組んでいるか。	B	・週案は、学年毎に毎週会議を行い作成し、教職員間において共通理解を図っている。また、異学年間においても共通理解ができるようなファイリングを実践し、園全体として共通理解に取り組んでいる。週案の原稿における項目書きから、より具体的な内容を目に見えた形として作成していくよう取り組みたい。 ・保育内容・疑問・反省などは、毎日日誌に記録し園長が全て読み、コメントを記入している。さらに、直接相談する場合も多く、その際は適宜アドバイスをし、日々の実践に活かしている。
3	指導と関わり	園児個々の興味や関心、能力に応じて活動することにより、成長に応じた関わりがなされているか。	A	・体育遊びや造形などの動的保育、及び音楽や茶道などの静的保育といった動・静の保育を総合的に実施し、創造的な活動を実践している。 ・ネイティブ講師によることばの時間を設け、国際性の育成を実践している。 ・教員と園児と一緒に活動する中で、園児の主体的な活動を展開できるよう、個々の興味や関心に共感し、支え合い、学びあいを実践している。 ・園児を連続的に成長する1人の個人として捉え、幼小中と継続して生きぬく力を月齢に応じた成長の中で育成し、小学校への継続教育を推進しスムーズな移行を実践している。特に年長児の教員については、小学校や大学の教員と共に保育や授業内容について研究し、円滑な接続について意識して取り組んでいる。
4	教育環境の構成	興味や能力に応じた活動及び異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができていないか。	A	・園舎全体を教具として捉えて設計し、園庭の遊具、室内の自由遊びのための遊具を追加導入するなど、園児の興味や関心に応じて、安心して好きな遊びができるように環境作りを実践している。

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の交流が自然にできるような部屋割りを実践している。遊びだけではなく、トイレや片付けなど年長児が年少児を自然とサポートできる環境の構成を行っている。</li> </ul>
5	研修・研究への取組	研修、研究への取組が十分に行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、絵画、造形、体育、茶道など講師を招き随時園内研修に取り組んでいる。また、技能向上を目指し、ピアノ講習、パソコン講習など様々な取組みを実践している。</li> <li>・外部研修として、多岐にわたる分野の研修会に積極的に参加している（年80日前後）。</li> <li>・前述の通り、年長児の教員については、幼稚園、小学校、大学の教員で構成されている研究会に所属し、保育や授業内容について研究し、小学校への円滑な接続について意識して取り組んでいる。</li> </ul>
6	安全管理体制の整備	安全管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署避難訓練年2回、警察交通安全講習年1回を行い、園内避難訓練を随時実施し緊急時に備えている。</li> <li>・教職員は全員、年に1度救急救命講習を行い全員が普通救命講習修了証を取得。AEDの設置。</li> <li>・毎年、警察協力の下、不審者侵入者対応の実践的な防犯講習を受講している。</li> <li>・来園者の園内立入証の着用、防犯カメラ、防犯設備、非常通報装置を設置している。</li> </ul>
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い、うがいを徹底実践し、各所に消毒液の配置などを行い外部からの来園者にも奨励している。</li> <li>・各部屋に空気清浄機・消毒液を設置し、ウイルス対策にも力を入れている。</li> <li>・嘔吐・下痢時の対応はマニュアル化しており、嘔吐時セットは常時利用できるようにしている。</li> <li>・給食など食品を扱う際には細心の注意を払い、マスク・手袋の完全着用を実践している。</li> </ul>
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣小学校や中学校との交流を実施し子ども社会への関わりを促進している。</li> <li>・老人ホーム、デーサービス慰問を積極的に実施し、大変歓迎され地域クリスマス会での出演依頼や生活発表会へ老人会からの観覧など、相互交流を実践している。</li> <li>・花とみどりのまちづくり推進において、雑草抜きなどにも積極的に参加している。</li> <li>・警察訪問を行うことにより、安全意識の向上につなげている。</li> </ul>

			<p>・都会の中にもありながらも、園の中にある樹木や畑の苗を育て自然との関わりを持ち、土や水、実りなど肌で感じるよう取り組んでいる。落ち葉を造形や絵画に利用するなど、園児の成長において自然との関わりを重視している。</p>
--	--	--	---

<評価の基準>

A	十分に達成されている	B	達成されている	C	取組はされているが十分ではない	D	取組が不十分である
---	------------	---	---------	---	-----------------	---	-----------

IV. 今後取組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	人とかかわる力を育てる「協同して遊ぶ経験」など、新しい教育課程の工夫を实践できるよう、これまで以上により具体的な保育カリキュラムの構築に取り組んでいきたい。
2	研修・研究への取組	園外の研修については、教員が主体的に自分の苦手とする分野や興味のある分野について多岐にわたる内容を受講し、その後レポートなどを作成、回覧し教職員間で学びを共有している。しかし、教職員間での学びの共有をより強固なものにするために、園内研修において発表や意見交換の機会を設けるなどの工夫が必要である。このような発表の機会は、発表を聞いている教職員の学びを促すだけでなく、発表者自身の学びを深化させることが期待できるので、日常の業務において時間的制約はあるが是非とも取り組みたい。
3	安全管理体制の整備	避難訓練、交通安全講習、具体的な防犯訓練の実施、救命救急講習の受講は引き続き実践していくが、さらに、大型地震や津波などにも備えた緊急時対策についてより緻密な計画を立てたい。
4	保護者に対する情報発信	保育目標や内容、子どもの活動については、園便りやクラス便りなどの手紙、そしてインターネットのホームページなどを活用し保護者に対して情報を発信している。しかし、保護者からもっと幼稚園の保育について伝えて欲しいという要望もあり、紙面の都合により保育に対する思いが伝えきれていないのも現状である。従って、講演会を設けるなど、これまで伝えきれていない部分について発信していく必要がある。

V. 学校関係者の評価

<p>上記の通り、適正に実行されていると判断できる。 特に指摘すべき事項はなく、諸事熱心に取り組まれている。</p> <p style="text-align: center;">(大学教授 3 名、地域振興会長 3 名、保護者会実行員 8 名 計 14 名委員会により)</p>
--